

令和7年3月19日

議会運営委員会会議録

- 1 日 時 令和7年3月19日
開会 13時15分 閉会 14時12分
- 2 場 所 幕別町役場3階会議室
- 3 出席者 委員長 岡本眞利子
副委員長 内山美穂子
委 員 塚本逸彦 小田新紀 荒 貴賀
野原恵子 田口廣之 谷口和弥
副議長 中橋友子
議長 寺林俊幸
- 4 傍聴者 長谷陽子 酒井はやみ 石川康弘
- 5 職務のため出席した議会事務局職員
事務局長 合田利信 課長 佐藤勝博 係長 菅原美栄子
- 6 審査事件及び審査内容(別紙)
 - 1 議員定数及び議員報酬等の見直しについて(第4回)

議会運営委員会委員長 岡本眞利子

◇審査内容

1 議員定数及び議員報酬等の見直しについて（第4回）（13：15～14：12）

○委員長（岡本眞利子） 議員定数及び議員報酬等の見直しについて、第4回会議を開きます。

議案の1、全員協議会における意見については、3月4日と12日の全員協議会において、議員定数に関する各議員の意見・お考えをお聞きした内容を整理したものであります。

議員定数については、(1)削減、(2)維持、(3)増員と意見が出され、その要旨であります。

また、(4)適正と考える議員定数についても、それぞれさまざまなご意見について、まとめたものでありますので、今後の協議の参考としてください。

次に、2、今後、検討すべき事項を議題といたします。

全員協議会において、各議員からお聞きしたさまざまなご意見を踏まえ、本委員会では検討を進めていかなければなりません、今回のご意見をまとめると、削減は9人、維持は7人、増員は1人という状況であります。

各意見には、それぞれの理由・お考えがあると思いますが、今後、適正な定数を判断していく上では、見直しによるメリットとデメリットを明確にし、共有した上で、その後の議論を行うことが望ましいと考えております。

全員協議会では、削減とする意見が最も多かったところではありますが、定数を維持、または増員という意見の議員からは、削減はデメリットにつながると捉えることとなります。

そこで、議員定数を削減することにより生じるデメリットとメリットについてを今後、検討すべき事項とし、議運で協議してまいりたいと考えております。

①デメリットについては、今回、維持または増員すべきとして出された意見の理由を一例として記載しましたが、このほかにも考えられるデメリットまたはメリットについても併せて、ご意見等をいただきたいと思います。

ご意見等がある方は、挙手をお願いいたします。

野原委員。

○委員（野原恵子） 今、委員長の説明の私の捉え方ですが、今後、この議運で議論を進めていく一番としては、削減の人数が多かったので、削減に対するデメリット、メリットを中心に議論を進めていくということですか。それとも、全体を含めて出された意見に対して、議論を進めていくという捉え方なのでしょうか。

○委員長（岡本眞利子） 削減に向けてというわけではなくて、全体の意見の中で、メリット、デメリットがあるかと思うので、それについて議会運営委員会で議論をしていくという思いで、今、発言をさせていただきました。

では、デメリット、メリットということで意見がある方は挙手を願います。

野原委員。

○委員（野原恵子） 例えば、削減という発言された方が9人いますよね。九つ出ているのですけれども、「①削減により、意思決定の迅速化、議論の質が向上する」という意見に対して、みなさんの意見を議論するとか、「②無投票だったから、議員定数を減らしたほうがいい」とかで議論するとか、「⑦住民が今の議員数で適正だと思われるのか考えると削減派やむを得ない」と、九つあるのですけれども、その中で財政状況に鑑み

てということもありました。そういうことについて一つひとつ議論していくとしたほうが、議論内容が深まると思うのですよね。それで、デメリット、メリットかというのを議論の中ではっきりするのではないかなと思うのです。私が思っていることを議論する中で、こういう意見もあってじゃあちょっと考え直してみようかということもあると思うので、そういう仕方のほうが議論しやすいのではないかと思います。みなさんどうでしょう。

○委員長（岡本眞利子） 内山副委員長。

○副委員長（内山美穂子） 削減の意見がそれぞれ挙がっているのですけれども、削減の意見を持っている人でも、デメリットは重々承知してしまっていて、なので、一つひとつそのことに対して、議論するというよりは、全体的に議会基本条例の見直しから始まって、今日のこういうことに来ていると思うのですけれども、一つひとつ議論するというよりは、もっと別のやり方があるのではないかなと思って、発言したのですけれども、別のやり方をまとまらないまま発言してしまいました。

○委員長（岡本眞利子） 田口委員。

○委員（田口廣之） 何を言ってもいいということにはならないと思うのですけれども、とりあえずこの進め方のなかの最初にいろんな意見をみんなで出し合って、削減なのか維持なのか増員なのかという意見が出ました。それは会の進め方の中で出てきた意見だと思うのです。最初から維持も減らすも増やすも、なんにもないところからこの会は進んでいるわけなのです。減らすという意見出ました、維持という意見も出ました、増やすという意見も出ました。それに対して、きちんと議論していかないと、いきなりここで、削減することによるデメリットとメリットと、唐突に言われてこの意見だけを言われても、意見の集約ではなくなってしまうのではないかなと思うのですよね。だからここで、減らす人はメリット、デメリットを持って喋っていないかもしれないけど、削減でない人からの意見を求めているような問いかけになってしまうと思う。もう少し公平な場できちんとみんなで協議、どうなるかということ考えたほうがいいのではないかなと思うのですけれども。

○委員長（岡本眞利子） 谷口委員。

○委員（谷口和弥） 私は、前の全員協議会では削減していくことが望ましいだろうと意見を述べたのですけれども、どういうメリットがあるか、どういうデメリットがあるかというのはあるけれども、ある中でどうするかという結論を自分で出して、意見を求める場があって、述べることができたというわけなのです。極端な意見ではなくて、メリットがないから、デメリットばかりだから削減と言っているわけではないということはおきたい。今の進め方はちょっと塩梅が良くないな、発言がしづらいなと。それぞれメリット、デメリットがわかるものだから、デメリットの意見でいうと、同じ削減という意見を述べた人の中でも、私の中では、こんなもの理由にしていえるのかというものもある。今、必要なことは議員がどうあるべきかということをもう一回、整理すべきではないかなと思う。大前提は議会基本条例で、議員はどう活動しなければならないのか、議場でどうしなければならないのか、日常的にどうあるべきなのか。町民に活動が見えない中では、定数が何人なの、という人から削減しろと言われたってどうしようもないわけですよ。少し話を戻して、議員がどうあるべきか、からいかなしいけないなというのが私の意見です。

○委員長（岡本眞利子）　この議題には、議員定数の削減することにより生じるメリット、デメリットとすると、もう削減と決めていると感じるところがあるのかなと、私も感じるところもあるのですが、削減ありきではもちろんないのです。では、削減と書いていますけれども、維持と増員に関してもメリット、デメリットをお聞きするのはいかがでしょうか。

小田委員。

○委員（小田新紀）　私もなんと話したらいいのか、まとまっていない状況ではあるのですが、そもそも先ほどあったとおり、基本条例の評価ということで各会派で年度末にやって、定数については議論が必要だということであったわけですが、議論が必要だという、その理由、なぜ議論が必要なのか、減らす理由、増やす理由にしてもその根拠はあの評価だけではわからないと思うのですよね。その段階として、議論がスタートして、各議員の持っている情報や知識の中で、今の段階でこういうふうな考えがあるということが、今初めてわかった状況かなと思うのですよね。だからといって、今削減が多いから削減だとかという話にはみなさんなっていないと思うのですが、どうしてそういう意見が出たかということがわかった段階でしかないと思います。その上で、議員なのでやはりこれから議会をどうしていくか、強いて言えばこの町をどうしていきたいかという視点の下で、では定数はいくつなのかという議論があっているのかなと。どういう視点で話し合っていけばいいのかが、ちょっとまだ定まっていない状況ではあるので、その視点を焦点化していくということが、次の作業としては必要なのかなという気もしています。

○委員長（岡本眞利子）　ほかにご意見はありますか。

野原委員。

○委員（野原恵子）　私は前段に削減の意見の一つひとつをと発言しましたがけれども、今は小田委員の話を聞きまして、この幕別町を町としてどう作っていくのか、そのために議員というのはどうあるべきか、そして議員の人数がどうあるべきかという進め方にするのが一番わかりやすいかなと思います。そうなりますと、1回とか2回とか少ない回数では不十分になりますので、どういう形で進めていくかをおさえて、それから定数どうするかという議論をしないと、焦点が定まらないのではないかと感じているところです。ここで、みなさんの合意の下でどういう方向で進めていくか、なにを基本に進めていくかを共通認識にして、議論していくことが大事だと思います。

○委員長（岡本眞利子）　谷口委員。

○委員（谷口和弥）　以前の定数削減の議論の時には、定数を削減するべきだという陳情が上がってきて、それをベースに削減をどうするかという議論だったのだけれども、今回はそういうことになっていない。この議論をし始めた大元というのはどっから来るものなのでしょう、ちょっと確認させていただきました。

○委員長（岡本眞利子）　これは、基本条例の検証をした段階で、各会派で議論していた中で、今の現在の議員定数がどうなのかという問いに対しての答えなのだと思うのですよね、そこから議員定数の見直しということが出てまいりました。

議会事務局長。

○事務局長（合田利信）　今、委員長答えたように、このスタートというのは議会基本条例の見直しの中で、まず検討すると。その中には削減という意見もありましたし、維持

という意見もありました。ですから、検討することがスタートであって、それが議会運営委員会で協議していくということになって、その経過の中で全員協議会で各議員の意見をいただいたのが、この議案のまとめであります。今回が第4回になりまして、スケジュールも組んでおりますので、進め方は今お話されたとおりなので、今後、委員が進めていくことになりますけれども、今日の検討していくこととして掲げていることとして書かれている「削減することによる」ということに、ちょっとハレーションが起きているのかと思うのですが、これは削減ありきではなくて、当然維持という意見を踏まえて、維持する側からすれば当然削減はデメリットということに繋がるので、議題もなく検討するのはなかなか難しいということから、まずは削減したとした場合は、維持派にとっては、デメリットが大きいという意見がたくさん出されるであろうということを踏まえて、役員会で協議させていただいて、何か議題を持って進めるほうが話しやすいのではないかとすることが本日の見直しの会議に至ったところでありますので、どうやって進めるかはみなさんが決めることでありますけれども、本日この議題となった説明は以上です。

○委員長（岡本眞利子） 塚本委員。

○委員（塚本逸彦） 目的と手段を、議会がどのようなビジョンを持ってやるのか、もしくは今、スタートしている部分も含めて見直しに議論になっているかと思うのですが、今、局長のお話もあったように、削減の場合のデメリット、私も削減の意見を出しましたが、メリットも想定はしますけれども、例えば、僕は3人と言いましたが、3人を削減した場合、予算も少なくなる、もう一個の懸案として、議員報酬の見直しもあったと思うので、ここで絡めるのかはよくわかりませんが、報酬を上げるというのも住民の理解を得られないのかなと。議員定数を減らすことによって、相対的に見れば、議員一人ひとりの報酬も上がるのではないかとという数学的な見地から思うのですよね。その部分のシミュレーション、資料みたいなものを出していただければ、検討の材料として削減のメリットなのか、さほど効果がないのか、その辺も含めてあるかと思うので、単純に割っていいものではないと思いますので、出していきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○委員長（岡本眞利子） ただ今の塚本委員のご意見に対して、何かありますでしょうか。荒委員。

○委員（荒貴賀） 谷口委員や小田委員は議会として、議員としてどういうものを目指すのかといったところを考えると、そこから定数の議論を行うべきではないかと受け止めたのですが、単純に定数や報酬という数値的なものではなくて、あるべき姿というのを議運で、どういった議会が必要なのかというのを共有するべきではないのかなと。単純にみんなが思ったことをお話したのだと思うのです。それを共有するに当たって、みんなが議員はこういったものが必要なのだとか、議会はこういったことをもっと大切にしたいのだということを共有して、もう一度諮るということも大切なのではないかと。ここで議論するのか、先生を読んでもう一度研修を開くのか、そういったことももう一度考えてもいいのではないかと思います。

○委員長（岡本眞利子） 暫時休憩をいたします。

（暫時休憩）

○委員長（岡本眞利子） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

今、進め方についてのそれぞれのご意見をいただきましたが、メリット、デメリットというところは外しまして、議員定数についての議会運営委員会としてのご意見をそれぞれ出していただくという方向性でいかがでしょうか。

野原委員。

○委員（野原恵子） 今、削減、維持、増員と三つ出ていますよね。これは、全員協議会の発言をまとめたものだと思うのですけれども、まとめたものではあるのですけれども、全部が書かれているわけではありませんよね。なので、発言の中で出された意見の中でも、意見がある方もいるかと思います。それも含めて、ここに出された意見をベースにして、議論していくということでみなさん合意されたのですかね。議員はどうあるべきかというところからスタートしたほうがいいという意見もあったのですけれども、委員長の仕切りでは、ここからスタートしていったらどうですかという意見なのですね。

○委員長（岡本眞利子） 内山副委員長。

○副委員長（内山美穂子） こういう形で示されているのですけれども、2年後の選挙の時に現状維持か削減かどっちに転んでも、責任は問われるというか、もうみなさん十分やっていると思うのですね、だけどそれが町民に伝わっていないというところもあって、もどかしいところもあるのですけれども、今おられる議員はみんな民意を背負って、それぞれいろいろな思いで出てきていると思うのですけれども、それが伝わっていないということもあったり、関心がないということもあったり、どっちに決まっても次回の選挙が定員割れだとかになると、別々に切り離して考えないといけないけれど、ちょっとその辺も懸念されるところなので、議員定数を決めると同時にもっといろんなこれまでのやり方でいいのかなというところで、先ほど話が出た議会サポーターだとか、議会に関わって実際の自分たちの活動を見て、取り込みながら意見交換していくことも同時にすることも大事なかなと思っておりました。関心を持ってもらいたいとは思っているのです。だからといって、話をどう進めたらいいかというのが、なかなか答えが出てこないなというところです。

○委員長（岡本眞利子） 暫時休憩いたします。

（暫時休憩）

○委員長（岡本眞利子） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

みなさまの意見それぞれ出されたのですが、まず幕別町議会としての方向性、どうあるべきかというのを次回、それぞれ意見を出していただき、定数のことにもつながっていくかと思いますので、まず幕別町議会としてどのような方向に向かっていくか、目的を話し合いたいと思いますが、いかがでしょうか。

（よろしいの声あり）

○委員長（岡本眞利子） では、次回はそのようにそれぞれの意見を議会としてどのように進んでいくかということ話し合いたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

次回の委員会の開催日程を議題といたします。

検討を進めるために、4月に本委員会を開催したいと考えています。日程の候補です

が、4月14日、15日でありますが、委員のみなさまのご都合はいかがでしょうか。

それでは、次回の委員会は4月14日（月）、午前10時から開催することとしたいと思います。

次に4、その他についてであります、この会議に関して何かございますか。

（なしの声あり）

○委員長（岡本眞利子） 事務局から何かございませんか。

（ありませんの声あり）

○委員長（岡本眞利子） 以上をもって、本日の案件は終了いたしました。

これをもって、本日の委員会を閉会いたします。

（14：12終了）